

朝日大学歯学部附属病院における歯科救急外来受診患者の推移

森 靖 博 笠 井 唯 克 岩 島 広 明 藤 本 雅 子
江 原 雄 一 桑 島 広 太 郎 水 谷 豪 池 田 昌 弘
毛 利 謙 三 安 田 順 一 田 邊 俊 一 郎 広 瀬 尚 志
住 友 伸 一 郎 玄 景 華 高 井 良 招 兼 松 宣 武

Clinical statistics of emergency patients for the Department of Oral Surgery, Asahi University

MORI YASUHIRO, KASAI TADAKATU, IWASIMA HIROAKI, FUJIMOTO MASAKO, EHARA YUITI,
KUWASIMA KOTARO, MIZUTANI TAKESI, IKEDA MASAHIRO, MOURI KENZO, YASUDA JUNICHI,
TANABE TOSIICHIRO, HIROSE TAKASI, SUMITOMO SHINICHIRO, GEN KEITA, TAKAI YOSIAKI,
KANEMATU NOBUTAKE

平成13年10月1日より平成16年12月31日までの3年3ヶ月間の朝日大学歯学部附属病院での歯科救急外来における患者受診状況について報告する。

1. 調査期間中の受診患者総数は4,729人であり、一日あたり平均3.98人であった。
2. 受診患者数は年々わずかながら増加傾向を認めた。
3. 性差別受診患者数は男性がやや多かった。
4. 時間帯別受診患者数では、平日は21時台、土曜日は13時台、日曜および祝日は9時台がそれぞれ最も多かった。また各日0時以降の受診患者数は減少する傾向を認めた。
5. 年代別受診患者数は20歳代が最も多く、次いで30歳代、10歳未満の順に多く、比較的に若い年代の受診が多かった。
6. 曜日別受診患者数では日曜日が最も多く、次いで土曜日が多く、土、日曜日に集中する傾向がみられた。
7. 疾患別の受診患者数では、歯周組織疾患が最も多かった。

キーワード：時間外歯科診療，受診患者，統計的観察

Emergency patients who visited Asahi University Hospital during holidays and out of hours for dental and oral surgical treatment between October 2001 and December 2004 were studied. The results were as follows:

1. *The total number of emergency patients was 4729, consisting of 2691 males and 2038 females, with distribution peaking in the 30s the age*
2. *The number of consultation patients increased slightly each year.*
3. *Most consultations week on Sunday.*
4. *Most patients on attended on weekdays after 2100 hours, on Saturday after 1300 hours, and on Sunday and national holidays after 0900 hours.*
5. *Consultation patient mostly had periodontal disease.*

Key words: emergency clinic, emergency patients, Statistical observation

緒 言

朝日大学歯学部附属病院では平成13年10月1日より歯科救急外来を開始して以来、夜間および休日に時間外歯科診療を必要とする患者を24時間体制で受け入れている。

近年、各施設で時間外歯科診療の統計的観察がなされており、救急医療における歯科分野の重要性を示唆する報告¹⁾や、時間外歯科診療の受診患者数が増加傾向にあるとの報告がある^{2,3)}。そこでわれわれは、朝日大学歯学部附属病院の歯科救急外来の実状について統計的観察を行い、その現状について調査したのでその概要を報告する。

対 象

調査期間は朝日大学歯学部附属病院の歯科救急外来を開設した平成13年10月1日より平成16年12月31日までの3年3ヶ月間である。歯科救急外来の診療時間は、平日16時30分から翌日9時まで、土曜日は12時30分から翌日9時まで、日曜および祝日は9時から翌日9時までである。今回はこの調査期間内に歯科救急外来を受診した4,729人を調査対象とした。

方 法

調査対象4,729人に対して、(1)性差別受診患者数 (2)年代別受診患者数 (3)年度別受診患者数 (4)曜日別受診患者数 (5)時間帯別受診患者数 (6)疾患別受診患者数について統計的観察を行った。

年代は10歳未満、10歳代、20歳代と以降同様に10歳区切りに分け、90歳以上はすべて90歳代とした。曜日別では当直医の勤務時間にあわせて統計をとった。疾患別では便宜的に、歯周組織疾患(根尖性歯周炎、P急発)、う蝕・歯髄疾患(歯髄炎、う蝕)、炎症(智歯周囲炎、膿瘍、骨髄炎、上顎洞炎、歯肉炎)、外傷(歯牙脱臼、軟組織損傷、歯牙破折、骨折、打撲)、補綴物脱離、抜歯後疼痛・出血・感染(抜歯後疼痛、抜歯後出血、抜歯後感染)、矯正装置脱離、顎関節疾患(顎関節症、顎関節脱臼)、インレー脱離、粘膜疾患(潰瘍、アフタ、びらん、カンジダ症)、口腔内出血、異物、神経性疾患(三叉神経痛、顔面神経痛)、ウイルス性疾患(帯状疱疹、単純疱疹)、その他(仮封材脱離、腫瘍、皮下気腫、骨鋭縁、唾石など)に分類した。

結 果

(1) 性差別受診患者数

性差別受診患者数は、男性2,691人(56.9%)、女性2,038人(43.1%)となっており、やや男性が多かつ

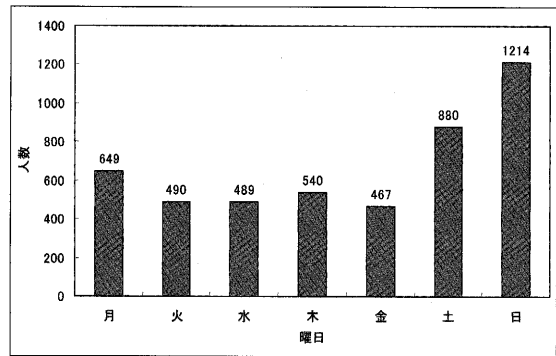


図1 曜日別受診患者数

た。(図1)

(2) 年代別受診患者数

年代別受診患者数では、20歳代1,230人と最も多く、次いで30歳代857人、10歳未満589人の順に多く、比較的若い年代の受診が目立った。40歳以降は年齢が上がるごとに受診者数は減少していく傾向を認めた(図2)。

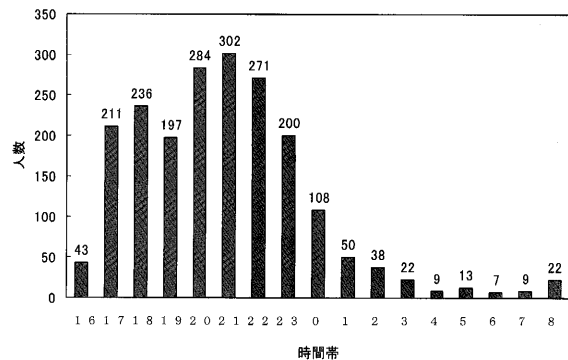


図2 平日の時間帯別受診患者数

(3) 年度別受診患者数

年度別受診患者数では、2001年度は調査期間が3ヶ月間と短い事もあり345人となったが、2002年は1,384人、2003年は1,491人、2004年は1,509人が受診しており、わずかながら年々増加傾向を認めた。(図3)

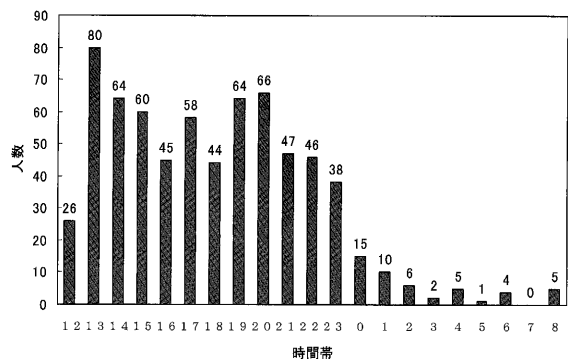


図3 土曜日の時間帯別受診患者数

(4) 曜日別受診患者数

曜日別では、日曜が1,214人と最も多く、次いで土曜

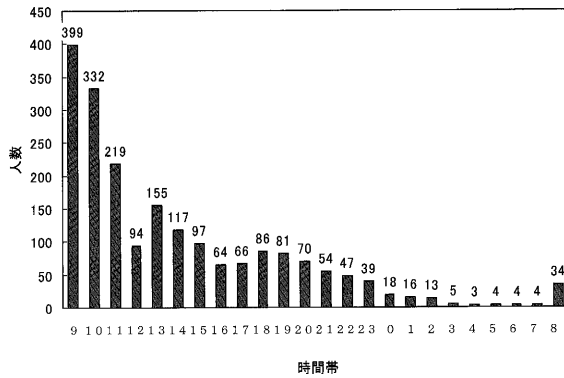


図4 日曜日の時間帯別受診患者数

が880人と週末の受診者数が多かった。また平日では、月曜が649人、木曜が540人とやや多かった。(図4)

(5) 時間帯別受診患者数

平日の時間帯別受診人数は、19時を除いて17時から21時にかけて増加傾向を認め、21時台が302人と最多となった。22時以降は減少傾向を認め0時以降ではとくに少なくなっていた。(図5)

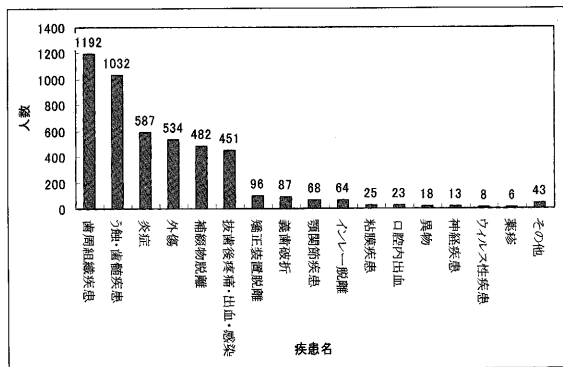


図5 疾患別受診患者数

土曜の時間帯別受診患者数は、13時台が80人と最も多く、それ以降は減少するものの19時台が64人、20時台が66人と増加し、二峰性を示した。また平日と同様に0時以降は減少傾向を認めた。(図6)

日曜・祝日の時間帯別受診患者数は、9時台から11時台の午前中に集中しており13時以降は一様に減少傾向を認めた。(図7)

(6) 疾患別受診患者数

疾患別受診患者数では歯周組織疾患が最も多かった。(図8) また各疾患の詳細は、歯周組織疾患では根尖性歯周炎967人、P急発225人、う蝕・歯髄疾患では歯髄炎742人、う蝕290人、炎症は智歯周囲炎320人、膿瘍155人、骨髄炎49人、上顎洞炎36人、歯肉炎12人、外傷は歯牙脱臼195人、軟組織損傷169人、歯牙破折104人、骨折52人、打撲14人、抜歯後疼痛・出血・感染では抜歯後疼痛212人、抜歯後出血187人、抜歯後感染52

人、顎関節疾患では、顎関節症41人、顎関節脱臼11人、粘膜疾患では潰瘍13人、アフタ5人、びらん4人、カンジダ症3人、神経性疾患では三叉神経痛10人、顔面神経痛3人、ウイルス性疾患では帯状疱疹6人、単純疱疹2人であった。

なお、外傷においては10歳未満が232人(39.1%)と特に多かった。他の疾患に関しては年齢による特徴はみられなかった。

考 察

今回の調査の受診患者総数は4,729人であり、一日あたりの受診患者人数は平均3.98人であった。田尻の報告⁴⁾と同様に、年末年始やお盆などの連休に受診人数が増加する傾向がみられた。

性差別受診者数では女性より男性が多く、他の報告と同様の結果となった^{2,3,4)}。この理由として、外傷が男性に圧倒的に多いことや、社会的に平日、診療時間内に診察を受けることが出来ないことが考えられる。

年代別受診者数では、他の施設では10歳未満の受診人数が最も多かったとする報告^{2,3)}もあるが、われわれの調査では田尻⁴⁾、伊藤ら⁵⁾の報告と同様に20歳代の受診が最も多い結果となった。しかし、いずれも若い年齢層の受診が多いという点では一致している。この理由として、20歳代、30歳代は診療時間内に診察を受けることが難しいことや、外傷や智歯周囲炎の好発年齢に一致していることが考えられる。

年度別受診人数は年々増加傾向を認めた。他の施設でも時間外歯科診療を受診する患者は経年的に増加しているとの報告^{2,3,4,6,7)}は多い。外傷や炎症などの口腔外科領域の症例に加え、歯髄炎や根尖性歯周炎などの一般歯科領域も含めて、時間外歯科診療の必要性を示すものと思われる。

曜日別受診人数では、日曜、土曜が多かった。この理由として、当院では連日処置の必要な患者は時間外歯科診療として扱うためや、受診患者の時間的猶予などが考えられる。平日では、月曜、木曜の受診が多かったのは、かかりつけ歯科医院の休診日が関係していると思われる。

時間帯別受診人数では平日は就学、就業時間外にあたる17時台から21時台にかけて集中していた。日曜、土曜が休日である患者が多いために午前中に受診する傾向がみられる。さらに、土曜は当院の診察時間が午前中で終了するために13時が最多となり、日曜日では前述したように、連日処置の必要な患者は午前中に受診してもらうので9時が最も多い結果となった。

疾患別受診人数では、外傷が最も多いとする報告²⁻⁶⁾は多い。しかし当院では、安藤ら⁷⁾の報告と同様に、

う蝕、歯周組織疾患が多い結果となった。施設の規模や性質、地域の実情などで報告には多少の差はある。しかしほとんどの施設で、受診の原因疾患はう蝕、歯周組織疾患、外傷、炎症が上位を占めている。伊藤らは救急医療機関において、常勤として口腔外科医をおき、口腔外科領域の専門治療を行う施設は少ないと報告している⁹⁾。しかし今回の調査においても時間外歯科診療の必要性は高いと考えられる。そして時間外診療に携わる歯科医師も口腔外科領域に限らず、一般歯科、小児歯科、と幅広い分野に習熟している必要があることが示唆された。

結 語

平成13年10月1日より平成16年12月31日までの期間で、朝日大学歯学部附属病院の歯科救急外来における患者受診状況について調査し、文献的考察を含めて報告した。

文 献

- 1) 桐山 健, 救命救急センターにおける口腔・顎顔面外傷の検討. 日口腔外会誌. 2000; 46: 366-368.
- 2) 黒岩裕一郎, 丹下和久, 中山敦史, 松浦宏昭, 福田幸太. 春日井市民病院歯科口腔外科における時間外救急外来受診患者の臨床統計的観察. 愛院大歯誌. 2002; 40: 255-258.
- 3) 下山哲夫, 難波祐一, 長谷川清衛, 沼 健博, 宮澤篤史, 西川直樹, 加藤崇雄, 那須大介, 金子貴広, 堀江憲夫. 埼玉医科大学総合医療センター歯科口腔外科における夜間休日時間外外来受診患者の臨床統計的観察. 日大歯学. 2004; 78: 1-5.
- 4) 田尻朗子, 横林敏夫, 清水 武, 五島秀樹, 鈴木理絵, 近添真也. 長野赤十字病院口腔外科における時間外患者の臨床統計的観察. Niigata Dent. 2001; 31: 173-178.
- 5) 伊藤 聡, 金村弘成, 荒 博範, 園山智生, 瀬戸皖一, 森田悦弥. 市中救急病院歯科口腔外科における救急車搬送患者の臨床的観察. 日口腔外会誌. 2003; 49: 694-697.
- 6) 森寺邦康, 岸本裕充, 高橋由美子, 川中正雄, 橋谷進, 穂積寿和子, 高原幸恵, 中武亜利, 飯塚容子, 高岡一樹, 新澤拓也, 名取 淳, 柳澤高道, 浦出雅裕. 兵庫医科大学歯科口腔外科における休日、夜間救急患者の臨床統計的検討. 歯界月報. 1998; 565: 38 (抄録).
- 7) 安藤智博, 青木美津子, 高木 紳, 近藤順子, 氏原浩文, 井瀬謙二, 桑沢隆補, 阿部広幸, 扇内秀樹. 東京女子医科大学歯科口腔外科における救急外来患者の臨床統計的観察. 日口腔科会誌. 1988; 37: 235-241.